

# 東京からこんにちは

静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さの可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

# AI活用した新しい学習アプリを開発

東京大学教育学部3年  
株式会社BEIL 代表取締役  
金子真大さん

## 9月末にリリース

今や大学生が会社を経営する時代だが、金子さんもその一人。高校の頃からICT（ITとほぼ同義）教育に関心があり、昨年2月、教育系ITのツール開発を行う会社「BEIL」を立ち上げた。「日本の大学で教育用ITツールの研究開発を行うのは難しいと思ったのが起業のきっかけです」。

東大に推薦入試で合格。学業との両立については、特に不都合は生じていないという。現在、アニメーションで高校生物などの解説、大学入試センター試験レベルの問題を学習で

きるiOSアプリ「TELL高校理科」（無料）をリリースしている。

「学習の無駄や紙を教育現場からなくしたい」と話す金子さん。新たに、①だれもが問題を作れて、かつその問題をだれもが学習できるアプリ、②学習データを保存し、それをAIに分析させ、次に学習すべき問題は何かを自動的に判別、フィードバックすることで学習の効率化を図るシステムを開発中で、9月末にリリースする予定。

①で言えば「例えば、先生がワード・太郎等で作った問題のファイルをアップロードするだけで、その問題をアプリで学習できる問題に自動

的に変換可能なシステム等を考えています」。

東大生4人で設立した教育系IT会社の運営にも携わる。目玉の「DREE」というサービスは、子どもの夢と好奇心を追求して、次の世代の異才を育てるのが狙いだ。アートやプログラミング、宇宙など専門分野に精通した家庭教師約40人が登録、オンラインで小中学生が自分の好みに合った教師を選択できる。

## 高校生の「国内留学」を

「静岡市が好きなので将来的には地元に戻れたいいな」と思っているという金子さん。一番感じているのは、「静岡にはリソースがすごくあるということ」。

若者たちに、「もっと静岡の良さ、リソースに気づいてもらう必要がある」と思います」と指摘。その方策の一つとして「例えば、市内の高校生と、東京など他の地域の高校生が1、2か月のスパンで互いの高校で学ぶ「国内留学」を提案する。

静岡市はICTの教育活用に向け、取り組みを始めている。「ICT教育の導入は時代の流れ。ぜひ、そういう環境を先取りして進めてほしいですね」。

（文：長田義明、写真提供：金子さん）



Masahiro Kaneko

静岡市駿河区生まれ。県立静岡高校卒業。2016年、ICT教育に関する論文・活動が評価され東京大学教育学部に推薦入学、教育実践・政策学コースの3年生。20歳。

17年2月、株式会社BEILを立ち上げ、代表取締役に就任。また、小中学生を対象とした家庭教師マッチングサービス「DREE」を運営する、合同会社NEXCITEのCTOとして技術・研究戦略の立案などを担当。

<http://www.beilinc.com>